



2025

ANNUAL REPORT

年次報告書

2025年度年次報告書（事業報告）

公益財団法人 JFE21世紀財団
東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル28階
〒100-0011
TEL 代表 03(3597)4652
FAX 03(3597)4627
E-mail zai21c@jfe-21st-cf.or.jp
URL <https://www.jfe-21st-cf.or.jp>



公益財団法人 JFE21世紀財団
JFE 21st Century Foundation

2025年度年次報告書 目次

2025年度 年次報告書の刊行にあたって	1
2025（令和7）年度事業	2
Ⅰ. 大学研究助成事業（公1）	4
技術研究助成金交付研究	6
アジア歴史研究助成金交付研究	14
出版事業	18
Ⅱ. 文化振興事業（公2）	
(1) 鉄鋼に縁のある地域への貢献	
・定禅寺ストリートジャズフェスティバル（仙台市）	20
・千葉交響楽団	20
・千葉市音楽協会	20
・千葉県少年少女囲碁大会、趙治勲囲碁大会	20
・ふれあいまつり（川崎市）	21
・MUZA ランチタイムコンサート（川崎市）	21
・川崎こどもステージ	21
・はんだふれあい産業祭り（半田市）	21
・三重県高等学校ロボット競技大会	22
・白壁倉敷将棋フェスタ	22
・倉敷音楽祭	22
・福山ばら祭	22
・芸能大全 まつりの世界（福山市）	23
・オーケストラ福山定期	23
(2) 「海外子女文芸作品コンクール」協賛と文集寄贈	23
Ⅲ. 財務データ	24
Ⅳ. 運営体制の充実を図るための取組	24
財団概要	25

ご挨拶 2025年度 年次報告書の刊行にあたって

2025年度年次報告書の刊行にあたりご挨拶申し上げます。

JFE21世紀財団は、1990年に現在のJFEグループ各社の出捐によって設立されて以来、大学研究助成や地域の文化振興を中心とした公益目的事業に専念し、活動を進めてまいりました。日頃より当財団の事業活動に対して様々なご支援を賜り心より御礼申し上げます。

2025年度は充実した事業活動を行うことができました。大学研究助成においては、技術研究助成、アジア歴史研究助成ともに大勢の研究者から応募をいただき、厳しい選出審査を勝ち抜いた40件の助成を行うことができました。とりわけアジア歴史研究助成の応募数は過去最多を記録し、西アジア（中東）から南・北アジアそして東アジアに至るまで様々な主題で数多くの研究が集まり、審査は活況となりました。全国の大学や研究機関で活発に研究活動が進んでいることが何よりも嬉しく、それにお力添えすることが当公益財団法人の果たすべき役割ですので、応募していただいた皆様にあらためて感謝を申し上げます。

応募状況と助成の実績を具体的に申しますと、「技術研究助成」は144件の応募に対して28件（鉄鋼技術8件、地球環境・地球温暖化防止技術20件）、「アジア歴史研究助成」は96件の応募に対して12件の助成を、厳正な審査を経て実施しました。12月に贈呈式を開催し総額7,400万円の助成金を交付しました。

1991年に研究助成を開始してからの累計助成件数はこれで992件となり、2026年度には1,000件の大台に達します。これを機として、技術研究助成で若手女性研究者を対象とする助成制度を2026年度から新たに追加することを決定しました。今後も「大学研究助成事業」を継続そして発展させ、日本の科学技術と人文科学の両分野における学術振興のお役に立ちたいと考えております。

もうひとつの活動の柱である「文化振興事業」につきましては、鉄鋼に縁のある地域への貢献として16件のイベントに協賛し、そして「海外子女文芸作品コンクール」への協賛も継続しました。各行事とも大勢の参加者・観客が集い、また地元 に根づいた行事も多く、地域文化の振興へご協力できることを誇りに思っています。

当財団は『21世紀鉄鋼産業に資する調査・研究、国内外の鉄鋼産業に関連する地域の発展・国際交流に資する事業を行うことにより、産業振興と豊かな生活文化を形成する』ことを目的として活動を行っています。社会貢献の一端を担うこれらの公益事業を今後も精一杯続ける所存です。皆様には更なるご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

公益財団法人 JFE21世紀財団

理事長 北野 嘉久

2025(令和7)年度事業

	2025年 令和7年						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
公1 《大学研究助成事業》 ・技術研究 ・アジア歴史研究 ・大学教材・鉄鋼関連 ・出版物の作成、寄贈	●公募(4月14日) >>>> 締切(6月23日)			●書類審査	●技術研究助成・審査委		
					●アジア歴史研究助		
					●助成研究		
公2 《文化振興事業》 ・鉄鋼に縁のある 地域への貢献 ・海外子女文芸作品 コンクール協賛	●海外子女文芸作品コンクール(公募5~7月、審査9月、結果発表11月)						
	●オーケストラ福山定期(4月20、21日、6月29日、9月21、22日、10月13、14日、2月6、7日、						
	●福山ばら祭(5月17、18日)						
	●京浜ふれあい祭(5月25日)						
	●川崎こどもステージ(6月21日)						
	●千葉県少年少女囲碁大会(6月22日、11月30日)						
	●千葉交響楽団ファミリーコ						
	●MUZA川崎ランチ						
	●仙台定禅寺スト						
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
《財団の運営》 ・評議員会 ・理事会 ・内閣府届出等			●定時評議員会(6月17日)				
			[・2024年度事業報告、計算書類の承認 ・2025年度事業計画書 他]				
			●監事監査報告の受領(4月23日)				
			●通常理事会(6月2日)				
			[・2024年度 事業報告、計算書類等の承認 ・代表理事の職務執行状況報告 ・公益認定法等改正の内容と影響]				
			●2024年度事業報告等の提出[内閣府](6月27日)				

			2026年 令和8年			
	11月	12月	1月	2月	3月	
員会(8月27日) 成・審査委員会(9月10日) 40件発表(9月25日)						
			●助成金贈呈式(12月1日)			
			●助成金支給(12月19日)			
					●「研究報告書」制作刊行(3月)	
	>>>> 「地球に学ぶ」寄贈(1月)					
	3月22日)					
ンサート(8月23、24日) タイムコンサート(9月9日、3月30日) リートジャズフェスティバル(9月13、14日) ●千葉市音楽協会コンサート(11月3日、12月20日) ●はんだふれあい産業まつり(11月8、9日) ●白壁倉敷将棋フェスタ(1月18日) ●千葉市趙治勲囲碁大会(3月1日) ●福山芸能大全(3月1日) ●倉敷音楽祭(3月7-22日)						
	11月	12月	1月	2月	3月	
●臨時理事会(1月27日) ●通常理事会(3月23日) [・技術研究助成 若手女性向け] [・2026年度事業計画書等の承認 ・審査委員の選任 ・代表理事の職務執行状況報告]						
						●2026年度事業計画書等の提出[内閣府](3月30日)

I. 大学研究助成事業(公1)

公益財団法人 JFE21世紀財団の最重要事業である「大学研究助成」は、財団設立以来継続している「技術研究助成」と2005年度に開始した「アジア歴史研究助成」を実施している。

2025年度は前年度3月下旬に公募案内と募集要項を、技術研究助成は大学、短大、高等専門学校理工学系学部、附属研究所ならびに国公立研究機関に、アジア歴史研究助成は人文社会科学系学部、附属研究所ならびに国公立研究機関に送付するとともに財団ホームページで公開し、4月14日から公募受付を開始した。また同日には報道機関へも情報提供を行い、翌日の鉄鋼新聞、産業新聞紙面にて報道された。

申請の受付は、財団ホームページに応募申請書を送信する形式で実施。6月23日に応募受付を締め切り、技術研究が68の大学・国公立研究機関等から144件、アジア歴史研究は60の大学・国公立研究機関等から96件の申請を受け付けた。両研究助成とも、7～8月に各審査委員による申請書査読を経て、技術研究は8月27日に審査委員会を開催し、助成研究28件（内 鉄鋼8件、地球環境・地球温暖化防止20件）を、アジア歴史研究は9月10日に審査委員会を開催し、助成研究12件を推挙した。ともに財団理事長の承認を得て、9月25日に選出結果を対外発表した。

12月1日に東京都千代田区において助成金贈呈式を開催し、助成金受賞者40名のうち31名が出席した。北野嘉久理事長の挨拶、福島裕法技術研究助成審査委員長および菊池秀明アジア歴史研究助成審査委員長の審査報告を経て、理事長から受賞者一人一人に研究助成金贈呈書を手渡した。贈呈式の後、記念撮影を行い受賞者の笑顔を記念に収め、贈呈式は滞りなく執り行われた。欠席された受賞者には、記念品とともに贈呈書を郵送した。



助成金贈呈書の授与



助成金贈呈書の授与



技術研究助成受領者（鉄鋼技術研究）



技術研究助成受領者（環境・温暖化防止技術研究）



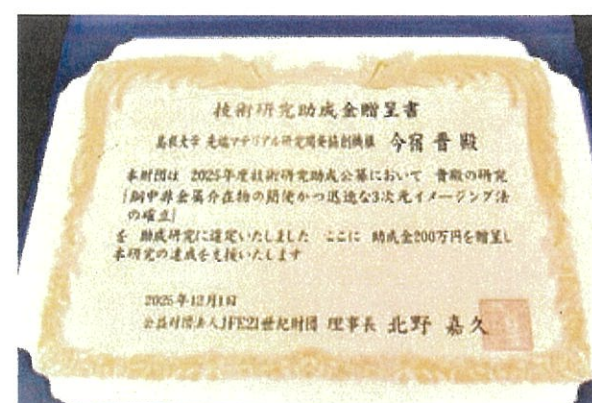
アジア歴史研究助成受領者



贈呈式 全景



贈呈式 受付の様子



大学研究助成贈呈書



北野理事長の挨拶



福島技術研究助成審査委員長の審査報告



菊池アジア歴史研究助成審査委員長の審査報告



助成金贈呈書の授与

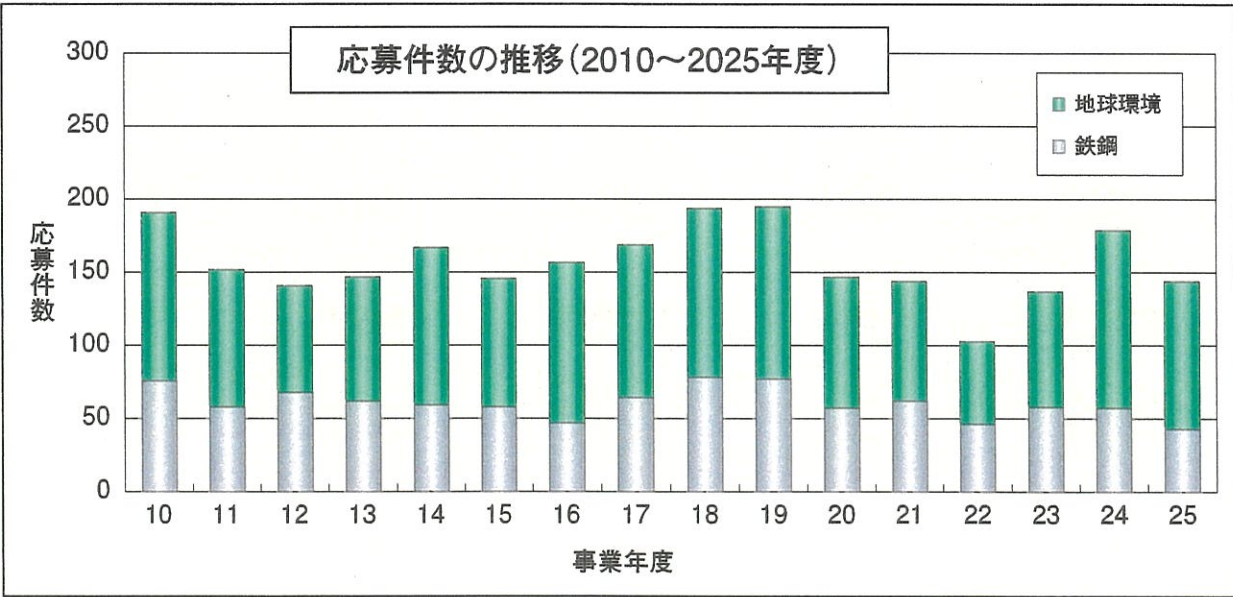
技術研究助成

2025年度は次の募集要項で4月14日から6月23日までの間、財団ホームページの申請画面にて応募を受け付けた。

- 助成 総額5,600万円（1件200万円を28件に交付）
- 対象者 日本の国公立大学・公的研究機関に所属する研究者（国籍不問）
- 対象研究 鉄鋼技術研究：鉄鋼材料、製造プロセス、鉄鋼副産物を対象とする基礎／応用研究。計測・制御・分析・計算科学・数値解析等で鉄鋼を対象とする関連技術や生産技術の研究を含む。
- 地球環境・地球温暖化防止技術研究：地球環境保全と地球温暖化防止を目的とした技術開発を対象とするエンジニアリング（工学）に関する基礎、応用技術の研究。
- 研究期間 原則1年（研究状況等の変化に応じて2年までの延長は可）

応募は、鉄鋼が43件、地球環境・地球温暖化防止テーマの件数が101件で、合わせて144件を対象に審査を行った。

審査は福島裕法審査委員長（JFE スチール副社長）を始めとするエンジニアと、材料工学、電気化学、エネルギー、プロセス加工等を専門とする大学教授、計12名で構成する審査委員が、1次・2次に渡り審査を行った。審査委員会での評議を経て「鉄鋼技術研究」8件、「地球環境・地球温暖化防止技術研究」20件、合計28件を選考・採択し、理事長の承認を得て2025年度助成研究を決定した。選考された研究は基礎研究に類するものから先端技術に関する研究、そして産業界や実社会において多大な成果が期待されるであろう研究など、多岐に渡る内容となった。いずれも学術的・工業的に高い評価を受け、社会的貢献が大いに期待されている研究である。



2025年度 技術研究助成への応募と助成研究（学校別）

助成 28件 (応募総数 144件)	国立大学 25件 (96件)	公立大学 0件 (9件)	私立大学 0件 (21件)	高等専門学校 0件 (7件)	国公立研究機関 3件 (11件)
-----------------------	----------------------	--------------------	---------------------	----------------------	------------------------

●国立大学

	学 校 名	助成	応募
1	北海道大学	1	7
2	室蘭工業大学		2
3	秋田大学	1	1
4	山形大学		1
5	東北大学		7
6	茨城大学		1
7	筑波大学		1
8	群馬大学		2
9	千葉大学	1	5
10	東京大学	4	7
11	東京科学大学	1	5
12	東京海洋大学	1	1
13	横浜国立大学	1	4
14	新潟大学		3
15	長岡技術科学大学		1
16	金沢大学		1
17	北陸先端科学技術大学院大学	1	1
18	福井大学		1
19	山梨大学		2
20	豊橋技術科学大学	1	2
21	名古屋大学		1
22	名古屋工業大学		2
23	岐阜大学	1	3
24	三重大学	1	2
25	奈良先端科学技術大学院大学	2	2
26	京都大学		4
27	大阪大学	2	3
28	鳥取大学		1
29	島根大学	1	1

●国立大学（続き）

	学 校 名	助成	応募
30	岡山大学	1	2
31	広島大学	1	3
32	山口大学		1
33	愛媛大学		1
34	高知大学		2
35	九州大学	4	9
36	熊本大学	1	2
37	大分大学		1
38	宮崎大学		1
国立大学 計		25	96

●公立大学

	学 校 名	助成	応募
39	東京都立大学		1
40	岐阜薬科大学		1
41	大阪公立大学		5
42	山口東京理科大学		1
43	北九州市立大学		1
公立大学 計		0	9

●私立大学

	学 校 名	助成	応募
44	千葉工業大学		2
45	千葉商科大学		1
46	青山学院大学		1
47	工学院大学		1
48	中央大学		4
49	東京理科大学		3

●私立大学（続き）

	学 校 名	助成	応募
50	東京電機大学		1
51	法政大学		1
52	東京工科大学		1
53	中部大学		1
54	立命館大学		2
55	関西大学		1
56	近畿大学		1
57	岡山理科大学		1
私立大学 計		0	21

●高等専門学校

	学 校 名	助成	応募
58	福井工業高等専門学校		1
59	鈴鹿工業高等専門学校		1
60	神戸市立工業高等専門学校		1
61	津山工業高等専門学校		1
62	宇部工業高等専門学校		1
63	広島商船高等専門学校		1
64	都城工業高等専門学校		1
高等専門学校 計		0	7

●国公立研究機関

	研究機関名	助成	応募
65	物質・材料研究機構	2	2
66	産業技術総合研究所		4
67	日本原子力研究開発機構	1	4
68	農業・食品産業技術総合研究機構		1
国公立研究機関 計		3	11

2025年度 助成金交付研究

【鉄鋼技術研究】

	研究者	研究テーマ
1	島根大学 先端マテリアル研究開発協創機構 今宿 晋 教授 他1名 いましゅく すすむ	鋼中非金属介在物の簡便かつ迅速な3次元イメージング法の確立
2	国立研究開発法人物質・材料研究機構 構造材料研究センター 片山 英樹 主席研究員 かたやま ひでき	ハイパースペクトル解析による塗装鋼板の非破壊耐候劣化評価技術の創出
3	九州大学工学研究院材料工学部門 河原 康仁 助教 かわはら やすひと	ニアバルクその場加熱 TEM による鉄鋼材料の焼戻し条件の最適化
4	国立研究開発法人物質・材料研究機構 構造材料研究センター 北嶋 具教 主幹研究員 他1名 きたしま とものり	レーザー粉末床溶融結合法における高耐熱ステンレス鋼の単結晶成長と造形体の機械的特性
5	東京大学生産技術研究所 酒井 雄也 准教授 他2名 さかい ゆうや	コンクリートの水分状態の可視化と鉄鋼スラグの活用拡大による温暖化防止
6	豊橋技術科学大学大学院工学研究科 中村 祐二 教授 他2名 なかむら ゆうじ	ハイブリッド燃焼技術：バイオマス粉体との混焼による副生ガスの利活用
7	三重大学大学院工学研究科 藤井 義久 准教授 他2名 ふじい よしひさ	鉄鋼表面の水和状態計測に基づく環境調和型防錆塗料の最適化
8	国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構 山口 正剛 研究主幹 他3名 やまぐち まさたけ	鉄刃状転位芯の水素トラップと熱脱離スペクトルにおける計算科学研究

研究の概要

イオンビーム誘起発光（Ion Luminescence）法による3次元イメージングにより、鉄鋼の品質低下につながる10μm以上の非金属介在物の種類・形態・分布を正確かつ迅速（およそ1時間以内）に把握できる装置および分析手法を確立する。

研究事項：イオンビームのスポットサイズ、印加電圧・電流、照射距離、真空度を最適化することで、鋼中に存在する10μm程度のMgAl₂O₄、Al₂O₃、MgO、MnS、2MnO・SiO₂、AlN、VCN介在物の3次元像を構築する。

塗装構造物の維持管理において重要な塗膜下腐食の早期段階での劣化検出に向け、ハイパースペクトル解析を用いた非破壊的耐候劣化評価技術を創出する。

研究事項：腐食加速試験を行った塗装鋼板表面についてハイパースペクトル撮影を行い、得られたスペクトル特性と塗膜劣化状態との相関を詳細に解析する。

バルク結晶における熱反応を再現可能な「ニアバルクその場加熱 TEM」を活用することで、焼戻し中の鉄鋼材料における炭素クラスタリングの実時間観察を行い、炭素クラスタの微細分散へ向けた熱処理条件を提案する。

研究事項：(1) 炭素クラスタリングを実時間で可視化するニアバルクその場加熱 TEM 法の開発
(2) 様々な温度条件でのニアバルクその場加熱 TEM 観察

フラットトップレーザを使用した粉末床溶融結合法で、高温特性に優れる耐熱ステンレス鋼単結晶の造形技術を開発する。ミクロ組織と機械的特性の関係を明らかにし、高性能な単結晶の造形条件を明確化する。

研究事項：造形した単結晶構造のミクロ組織を解析し、高温機械的特性を評価する。特性に及ぼす組織因子を明らかにし、特性発現メカニズムを明らかにする。

コンクリート中の鉄筋探査に用いられている汎用的なハンディ型レーダーを活用して、高炉スラグ微粉末を添加したコンクリートにおいても水分浸透深さを簡易かつ高精度に評価するための手法を開発する。

研究事項：レーダーを用いる評価においてマーカーとなる金属材料を様々な条件でコンクリート中に埋め込み、最適な測定条件を模索するとともに解析アルゴリズムの改良を行う。

低濃度の水素やCOなどを含む副生ガスの助燃剤としてカーボンサイクル可能な資源であるバイオマスを用いて効率的に燃焼させる「副生ガスとバイオマス（粉体）のハイブリッド燃焼技術」を確立する。

研究事項：低カロリーガスを用いたハイブリッド燃焼で形成される火炎構造（温度、速度場）を詳細に調べ、ハイブリッド燃焼による安定化機構を理解した上で理論モデルを提案する。

高分子からなる防錆皮膜を介した水浸透による金属の腐食について、金属表面の酸化状態とその表面の水の結合状態をサブミクロンスケールの水平分解で化学的・形態的構造解析を行い、優れた防錆塗膜の開発を目指す。

研究事項：浸水過程の時分割非破壊計測と金属・塗膜の物性をナノ赤外分光で評価し、防錆塗料の環境調和型機能性分子である植物由来の没食子酸の化学構造を最適化する。

鉄鋼材料の水素脆化メカニズム解明のため、鉄中水素の存在状態の把握が必要である。本研究では、未だに不明点の多い鉄刃状転位芯と水素の相互作用を、実験との比較検証をしつつ、計算科学によって明らかにする。

研究事項：(1) 機械学習ポテンシャル計算によるセルサイズ補正を加えた鉄刃状転位芯水素トラップエネルギーの第一原理計算
(2) 転位芯からの水素熱脱離数値シミュレーション

2025年度 助成金交付研究

【地球環境・地球温暖化防止技術研究】

	研究者	研究テーマ
1	千葉大学大学院工学研究院 共生応用化学コース 天野 佳正 准教授 他1名 あまの よしまさ	藍藻ブルーム除去のための浮揚性向上技術の創発
2	奈良先端科学技術大学院大学先端 科学技術研究科物質創成科学領域 安藤 剛 准教授 他2名 あんどう つよし	中温域で機能する可逆反応型化学蓄熱ポリマーの開発
3	九州大学大学院総合理工学研究院 石田 洋平 准教授 いしだ ようへい	二次元分子集合体の自在制御による太陽光エネルギー変換システム
4	秋田大学大学院理工学研究科 加賀谷 史 技術専門職員 他3名 か が や ふみと	鉄鋼スラグを資材とするジオポリマーの試作およびその性能評価
5	北海道大学大学院農学研究院 連携研究部門 加藤 知道 教授 他2名 かとう ともみち	ブルーカーボン貯留速度推定のための太陽光誘起クロロフィル蛍光測定装置の開発
6	岐阜大学工学部 電気電子・情報工学科 久保 理 教授 他1名 く ぼ り	層状ゲルマニウムの層間水誘起準位評価と光起電力素子への展開
7	広島大学大学院先進理工系科学研究科 化学工学プログラム 後藤 健彦 准教授 他2名 ごとう たけひこ	希土類元素のリサイクルに有効な高分子ゲルを用いた分離回収技術の開発
8	奈良先端科学技術大学院大学先端 科学技術研究科物質創成科学領域 後藤 知代 教授 他2名 ごとう ともよ	資源循環を目指したアップサイクル光触媒の開発
9	大阪大学大学院理学研究科 小林 裕一郎 助教 こばやし ゆういちろう	廃硫黄を原料とする高機能硫黄ポリマーの開発と資源循環型材料への展開
10	東京海洋大学学術研究院 海洋電子機械工学部門 柴田 恭幸 助教 しばた たかゆき	電池構造を有する熱エネルギーハーベスト素子の全固体化

研究の概要

アオコの原因種「ミクロキスティス」の浮揚性向上技術を創発する。強結合性細胞外多糖類（EPS _{TB} ）・Ca ²⁺ と光・温度制御により、(i) 群体拡大、(ii) 細胞密度低下を促し、高まる浮揚性を利用した新規アオコ除去手法を構築する。 研究事項：光・温度制御条件下、細胞密度が最も低減する培養時間と、浮揚性向上の鍵となる群体拡大を促す EPS _{TB} ・Ca ²⁺ 添加量を見極める。本法で細胞から藍藻毒の溶出のないことも実証する。
本研究では、産業排熱が多い中温域（120～150℃）に対応し、Diels-Alder 型可逆反応を利用した固体ポリマー蓄熱材を創製する。相変化を伴わず繰返し吸放熱し、未利用熱の回収・再利用に資する。 研究事項：モデル低分子系でDiels-Alder(DA)反応の可逆挙動とΔHを評価する。側鎖にDA部位を導入したポリマーを合成する。DSC等で蓄熱性能と耐久性を検証する。
植物の光合成系をお手本に、光を利用して水から電子を取り出しCO ₂ を炭素資源へと変換する人工光合成システムの構築を目指し、自然の仕組みを模した新しいエネルギー変換系を探る。 研究事項：可視光応答光触媒に色素を配列しCO ₂ 還元金属クラスターと統合、人工光合成系を構築し持続可能なエネルギー創出に挑む。
本研究では、製鉄時の副生物である鉄鋼スラグのうち、道路用スラグ路盤材（HMS25）及びクラッシュランスラグ（CS40）を資材としてジオポリマー（GP）を試作する。更に物性試験を行い、GP資材としての有用性を検討する。 研究事項：HMS25及びCS40の混合粉末を資材に、硬化剤を用いてGPを作製する。試料は一定材齢へ到達後、酸浸漬、強熱、凍結融解の各試験を行い、前後の外観及び強度変化から性能を評価する。
水域（湖沼・海洋）の植物（藻類・水草）の光合成によるブルーカーボン貯留を、新しいリモートセンシング指標である太陽光誘起クロロフィル蛍光によって遠隔・長期・野外で連続測定するための装置を開発する。 研究事項：長野県諏訪湖畔において、高分解能分光放射計による湖面からの蛍光放出を連続観測するシステムを開発し、同時計測されている湖面CO ₂ 吸収速度の代表性を明らかにする。
層状ゲルマニウム材料のゲルマナン（GeCH ₃ ）は高移動度と直接バンドギャップを併せ持つため光電変換材料として有望である。本研究では層間水に着目し、これを制御することで高効率光起電力素子応用を目指す。 研究事項：プローブ顕微鏡でGeCH ₃ 形成される水分子誘起準位の形成メカニズムを明らかにする。また、水を制御したGeCH ₃ の光起電力素子の設計指針を導出する。
希土類イオンが特定の陰イオンと難溶性の塩を形成する現象に着目し、陰イオンを内部に担持した高分子ゲルを希土類イオン水溶液に浸漬し、希土類塩の結晶をゲルの内部で析出させて、希土類塩を含んだゲルを回収する。 研究事項：希土類塩生成に用いる高分子ゲルの合成条件および希土類塩回収に適した陰イオンの種類と濃度を明らかにする。さらにゲルの再生方法を検討し、希土類回収率の向上を目指す。
無機吸着材は、結晶構造内の捕捉物質を材料設計に生かすことで再利用可能な資源として活用できる。本研究では、実使用環境を想定した使用済み層状チタン酸塩吸着材を原料としたアップサイクル光触媒を創製する。 研究事項：水処理後を想定した層間陽イオンを導入した吸着材を調製し、光触媒へのアップサイクル処理条件、生成物の構造および光触媒性能と陽イオン種との関係を明確にする。
本研究では、石油精製で副産する廃硫黄を活用し、高機能硫黄ポリマーの創製を目指す。硫黄ポリマーは炭素系にはない静電容量や屈折率を持ち、電池材料や光学部材への応用が期待される。 研究事項：本研究では、従来未開拓であった重縮合法を用いて硫黄ポリマーを合成する。官能基との反応を利用し、新規ポリマーを得る。
本研究では、デバイス自身の温度変化を熱起電力に変換可能な二次電池構造を有する熱－電気エネルギーハーベストデバイスに、ポリマー電解質を用いて全固体化したデバイスの、デバイス特性評価を行う。 研究事項：20℃－40℃の温度変化をデバイスに与えた時の熱起電力、放電特性、熱サイクル特性、熱効率、内部抵抗、熱応答特性等を評価し、本デバイスの素性を明らかにする。

2025年度 助成金交付研究

【地球環境・地球温暖化防止技術研究】

	研究者	研究テーマ
11	熊本大学大学院先端科学研究部 関根 良博 准教授 他1名 せきね よしひろ	ナノ炭素材料を基盤としたエネルギーデバイス創製
12	大阪大学大学院基礎工学研究科 物質創成専攻機能物質化学領域 鷹谷 絢 教授 たかや じゅん	可視光駆動型複合金属触媒による二酸化炭素の高度資源化
13	東京大学大学院工学系研究科 化学システム工学専攻 竹本 晶紀 助教 他3名 たけもと せきのり	低 N ₂ O 排出を実現する次世代ゼオライト系脱硝触媒の開発
14	東京大学大学院工学系研究科 マテリアル工学専攻 豊島 遼 講師 他1名 とよしま りょう	ナノデルタ型プラズモニック CO ₂ 光還元触媒の創出と深化
15	岡山大学学術研究院 環境生命自然科学学域 難波 徳郎 教授 他1名 なんば とくろう	塩化焼成法による汚染土壌の無害化処理プロセスの開発
16	東京科学大学 フロンティア材料研究所 半沢 幸太 助教 はんざわ こうた	高効率強誘電体太陽電池の実現に向けた新材料開発
17	横浜国立大学大学院環境情報研究院 人工環境と情報部門 松宮 正彦 教授 他1名 まつみや まさひこ	新規アミド系抽出剤を利用した抽出－電解法による白金族金属回収技術の開発
18	九州大学高等研究院 安田 琢麿 教授 やすだ たくま	透明性有機太陽電池が拓く次世代クリーンエネルギー技術開発
19	東京大学生産技術研究所 安村 駿作 助教 やすむら しゅんさく	原子シミュレーションを活用した温室効果ガス分解触媒の開発
20	九州大学大学院工学研究院 山本 剛 准教授 やまもと つよし	バイオマス流動層プラズマによる CO ₂ から CO への高効率変換

研究の概要

本研究では、多彩な表面官能基や欠陥を表面上に有する酸化グラフェン（GO）ナノシートや還元型酸化グラフェン（rGO）を基盤とした炭素材料を開発し、プロトン伝導膜や電気触媒、燃料電池への応用を目指す。

研究事項：バイオマスを用いた GO の合成手法の最適化を行う。GO および rGO と種々の有機分子やナノ金属粒子と複合化し、ハイブリッド材料を評価する。

独自に開発した多座配位子を用いることで様々な金属の組み合わせをもつ複合金属触媒を創出し、二酸化炭素2分子を取り込む可視光駆動型還元的カップリング反応による多価カルボン酸合成法を確立する。

研究事項：(1) 複合金属錯体触媒の合成と構造・機能解析
(2) 複合金属錯体の固相担持触媒化
(3) CO₂を原料とするシュウ酸、グリオキシル酸誘導体、アジピン酸合成反応の開発

ゼオライトは脱硝触媒として活用されているが、未だ副生成物として発生する N₂O 排出量の低減が求められる。本研究では通常では導入困難なカチオン種を担持したゼオライト触媒調整手法の開発に取り組む。

研究事項：本研究課題では新たなイオン交換手法を開発し、導入イオン種の組成汎用性拡張を目指す。現行品と比較して、低 N₂O 排出を実現できる触媒設計指針を提案する。

光触媒による還元作用を駆使した二酸化炭素（CO₂）の資源化の実現に向けて、高い反応効率が期待されるナノデルタ構造を持ったプラズモニック光触媒を創出し、その最適構造と微視的反応機構を解明する。

研究事項：ナノスフィアリソグラフィを利用した触媒構造の精密制御、およびオペランドと呼ばれる動作中の触媒表面の分析が可能な放射光 X 線吸収分光を駆使した CO₂の直接定量を行う。

本研究では、汚染土壌中の有害元素の分離回収プロセスの開発を目指し、塩化物などを添加した模擬汚染土壌に加熱・水洗処理を施した際の有害元素の固相、液相、気相への分配挙動を系統的に調査する。

研究事項：セシウムや重金属元素を含む模擬汚染土壌に MgCl₂などを添加し熱処理を施す。この際、対象元素を効率的に塩化物に変換し、土壌から分離可能な処理条件を探索する。

強誘電体の内部電界を駆動力とする高効率な太陽電池創製の基盤となる狭いバンドギャップと強誘電性が共存する半導体材料の開発を目指し、ペロプスカイト型窒化物のキャリア濃度を抑制する手法を確立する。

研究事項：元素置換と高活性窒素源を用いた窒化法を駆使することで、ペロプスカイト型窒化物のキャリア起源となる不純物酸素の減少機構を明らかにする。

本研究では新規アミド系抽出剤を溶媒抽出法に適用し、白金族金属の選択的分離を行う。抽出分離後、過電圧を制御した電解析出法によりメタル化する。最終的に廃触媒から白金族金属の分離・回収技術を確立する。

研究事項：白金族金属の抽出分離ではイオン対抽出機構を活用し、白金族金属の抽出率、分離係数を評価する。白金族抽出錯体の電解析出挙動を解明した上で、最適条件を明確化する。

透明性・意匠性・柔軟性を有する有機薄膜太陽電池による次世代クリーンエネルギー技術を開発する。可視光を極力透過し、近赤外光も利用して発電する新コンセプトにより、従来ない透明性デバイスの実現を目指す。

研究事項：高性能な P 型および N 型有機半導体材料の開発を行う。さらに、デバイスにおける処方・プロセス条件の検討により、高変換効率と透明性を両立するための指針を明らかにする。

メタンは CO₂の25倍の温暖化係数を持つ温室効果ガスであるが、排ガス中に含まれる未燃メタンの大気放出が問題となっている。本研究では、計算科学を活用し、高効率なメタン低温燃焼触媒の開発に取り組む。

研究事項：高速に反応シミュレーションが可能なニューラルネットワークポテンシャルを用いた分子動力学計算で触媒反応を再現する。計算先導で固体触媒を検討可能な方法論を確立する。

本研究では、CO₂マイクロ波プラズマとバイオマス流動層を融合し、プラズマの電離（CO₂→CO+O）とバイオマスの酸化（O+C→CO）という二段階の反応より、高濃度 CO を製造する革新技術の開発を行う。

研究事項：均一なプラズマ流を形成する装置を構築するとともに、バイオマスの最適性状および装置全体の反応メカニズムを明らかにし、CO 製造の最適条件について検討する。

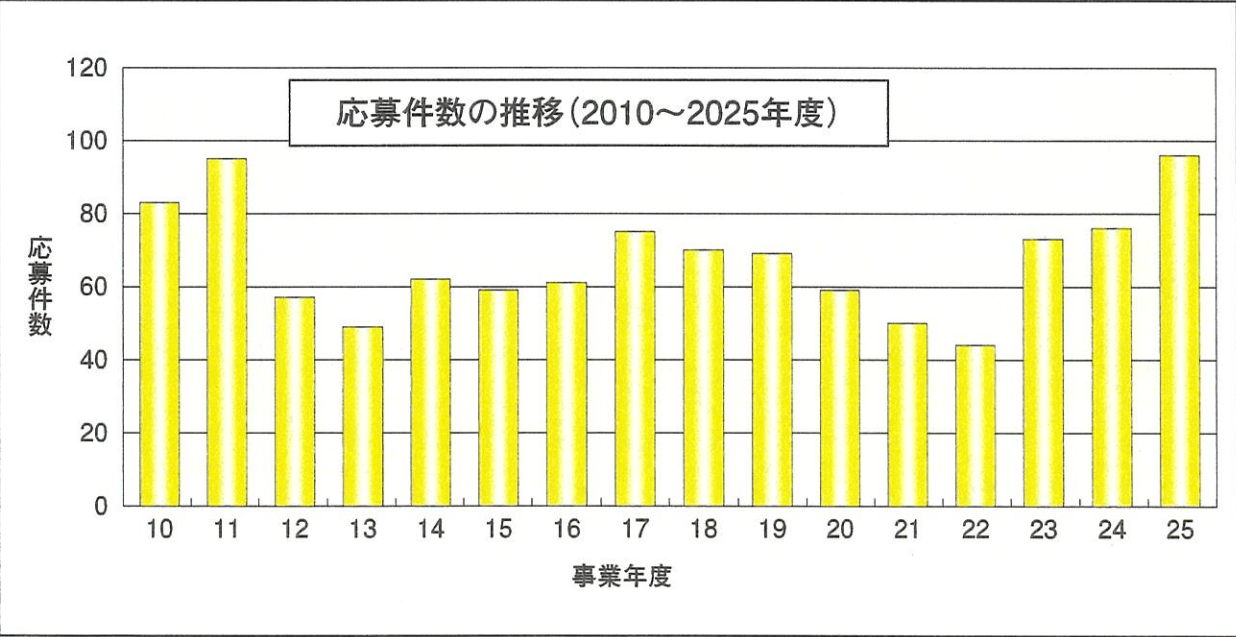
アジア歴史研究助成

2025年度は次の募集要項で4月14日から6月23日の間、財団ホームページの申請画面にて応募を受けた。

助成 総額1,800万円（1件150万円を12件に交付）
対象者 日本の国公私立大学・公的研究機関に所属する研究者（国籍不問）
対象研究 「アジアの歴史を対象とし、21世紀アジアと共存・共栄するための、日本の産業と文化の Vision 構築に資する研究」
アジアの各地域はいずれもきわめて複雑な歴史をたどってきた。その結果として今日の政治、経済、社会、文化状況がある。本研究助成は、歴史的経緯を踏まえながら現況を直視し、未来を考える研究を対象とする。また、アジア各地域と日本の関係についての歴史と記憶の研究も含む。
研究期間 原則1年（研究状況等の変化に応じて2年までの延長は可）

応募件数は96件で、当該助成開始以来最多の応募があった。海外調査を含んだ意欲的な研究計画が多く、実証的な研究のほかに研究史の見直しを含めた幅広い視野を持つ応募が目立った。

審査は4名の審査委員による査読審査、審査委員会での審議を経て12件を選考・採択し、理事長の承認を得て2025年度助成研究を決定した。選ばれたテーマの対象地区は、西アジア、中央アジアの応募者が増えたことを反映して、東アジア4件、日本2件、東南アジア3件、中央アジア2件、西アジア1件となり、地域を横断した研究構想も選ばれ、また独創的な内容が目立った。厳しい選出倍率の影響もあり、南アジアと北東アジア地区の応募テーマから選出することができなかった。



2025年度 アジア歴史研究助成への応募と助成研究（学校別）

助成 12件 (応募総数 96件)	国立大学 7件 (38件)	公立大学 1件 (7件)	私立大学 4件 (47件)	国公立研究機関 0件 (4件)
----------------------	---------------------	--------------------	---------------------	-----------------------

●国立大学

	学 校 名	助成	応募
1	北海道大学		3
2	山形大学		1
3	東北大学		1
4	新潟大学		3
5	宇都宮大学		1
6	筑波大学		3
7	東京大学	2	5
8	東京外国語大学	1	3
9	一橋大学	2	2
10	名古屋大学		2
11	滋賀医科大学		1
12	京都大学	1	3
13	大阪大学		1
14	神戸大学	1	3
15	広島大学		2
16	島根大学		2
17	山口大学		1
18	琉球大学		1
国立大学 計		7	38

●公立大学

	学 校 名	助成	応募
19	会津大学		1
20	高崎経済大学		1
21	大月市立大学		1

●公立大学（続き）

	学 校 名	助成	応募
22	大月市立短期大学		1
23	兵庫県立大学		1
24	北九州市立大学		1
25	宮崎公立大学	1	1
公立大学 計		1	7

●私立大学

	学 校 名	助成	応募
26	聖学院大学		1
27	青山学院大学		1
28	亜細亜大学		1
29	国士舘大学		1
30	駒澤大学		1
31	上智大学	2	3
32	創価大学		2
33	大正大学		1
34	中央大学	1	2
35	帝京平成大学		1
36	東洋大学		2
37	日本文化大学		1
38	法政大学		1
39	明治大学		1
40	立教大学		2
41	早稲田大学	1	5

●私立大学（続き）

	学 校 名	助成	応募
42	富山国際大学		1
43	愛知大学		1
44	金城学院大学		1
45	中部大学		1
46	南山大学		1
47	京都外国語大学		1
48	同志社大学		2
49	平安女学院大学		1
50	立命館大学		3
51	天理大学		1
52	梅花女子大学		1
53	関西大学		1
54	甲南大学		1
55	岡山商科大学		1
56	福山大学		2
57	福岡大学		1
58	福岡女学院大学		1
私立大学 計		4	47

●国公立研究機関

	研究機関名	助成	応募
59	国立東京文化財研究所		1
60	国際日本文化研究センター		3
国公立研究機関 計		0	4

2025年度 助成金交付研究

【アジア歴史研究】

	研究者	研究テーマ
1	上智大学文学部史学科 大川 裕子 准教授 他1名 おおかわ ゆうこ	明清農書からさぐる季節の生産活動と食糧保存
2	一橋大学大学院社会学研究科 加藤 圭木 教授 かとう けいぎ	植民地期朝鮮の地域有力者と「地域振興」
3	東京大学附属図書館 アジア研究図書館研究開発部門 河原 弥生 准教授 他3名 かわはら やよい	サマルカンドにおけるナクシュバンディー教団の歴史的研究
4	一橋大学大学院社会学研究科 洪 郁如 教授 他3名 こう いくじょ	帝国日本の学縁とその戦後的展開—台湾人留学生を中心として
5	東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 後藤 絵美 准教授 他2名 ごとう えみ	近現代の日本・エジプトにおける思想・運動・芸術の交わりと「固有性」の再検討
6	神戸大学大学院国際文化学研究科 貞好 康志 教授 さだよし やすし	戦前期インドネシアの日本人社会の研究 —生業と住民関係を焦点に—
7	中央大学経済学部 田中 光 准教授 他3名 たなか ひかる	近代アジア間貿易の中の日本在来産業と各国中小商社の役割
8	宮崎公立大学人文学部国際文化学科 谷口 美代子 教授 他1名 みにぐち みよこ	分断と包摂の交錯する和平後の統治に関する研究
9	東京大学大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻 中村 元哉 教授 他2名 なかむら もとや	中国近現代史のなかに改革開放期中国の政治思想を位置づける

研究の概要

中国明清時代にカレンダー式で記された『便民図纂』『西石梁農圃便覧』などの農書をもとに、農村基層社会で営まれた農作業サイクルと食糧確保のあり方について、とくに保存法に注目して考察する。
研究事項：関連史料の収集と農書の精読（研究会における会読）に加え、農書が記された現場である山東省日照県で調査を行い、現地の環境と食文化を調査する。

本研究の目的は、植民地期朝鮮において朝鮮総督府の統治に協力した地域有力者による「地域振興」の取り組みを検討することで、地域社会における政治・経済構造を多面的・立体的に把握することである。
研究事項：日本・韓国における史料調査と現地調査を踏まえて、地域有力者の活動について主に①地域に立地した大企業との関係、②地域内の性産業との関係に重点を置きつつ検討する。

中央アジアにおけるイスラームの発展と変容を理解するため、ナクシュバンディー教団の重要拠点であったサマルカンド地方における活動の実態について、史資料や聖者廟を調査し、研究基盤を築く。
研究事項：16世紀の教団指導者マフドゥーミ・アファザムの聖者廟を手がかりに、その子孫たちの数世紀にわたる広域な布教活動を解明するために必要な史資料を収集し、データ化する。

戦前日本で形成された学縁が戦後の日台間、そして東アジアにおいていかに再編・継続されたかを実証的に解明し、国家統制下でも存続した人的ネットワークの政治、産業、文化等における能動的機能を考察する。
研究事項：各大学の事例を複線的に分析し、校史、校友会誌、回想録、政府資料、地域史等を用い、経済、政治、芸術など社会領域を横断して人物とネットワークの動態を丹念に検証する。

本研究は、近現代のエジプトと日本の間の思想・運動・芸術の交わりを描き出すものである。それにより、これまで各地域の「固有性」とみなされてきたものを解体し、繋がりと連環、内実の豊かさを明るみに出す。
研究事項：近代日本・エジプトでのハーバート・スペンサーの思想の受容、徳富蘆花と妻あいによるエジプト1919年革命の記録、小泉文夫のエジプト音楽調査と『ナイル沿いの歌』（1966）編纂

第二次世界大戦前のインドネシア（当時のオランダ領東インド）に在住した日本人の社会実態、特に様々な生業の状況と現地の諸住民との社会的・心理的な関係のあり方や変遷のさまを明らかにする。
研究事項：日本人向けに刊行され流通した『爪哇日報』をはじめとする当時の新聞や領事館記録等に加え、マレー語新聞、オランダ政庁の記録等も活用し、住民関係を立体的に究明する。

20世紀初頭の日本産業革命期、在来産業に属する日本の中小企業の多くが対アジア輸出によって成長していった事実を、個別企業の成長事例の分析を通じて、製造業者にとっての在日・在外中小商社の役割を明らかにする。
研究事項：本研究では兵庫県印南郡の稲岡商店（タオル製造業）の対中国・対インド輸出を通じた経営の成長を取り上げ、在日海外商社・在外日本商社と大手商社の役割の違いを検証する。

本研究の目的は、ミンダナオ紛争の発祥地スールー州に焦点を当て、分離独立運動から自治政府創設に至る過程を検証し、自治体制からの離脱要因と住民の認識を歴史的・社会的背景をふまえて明らかにする。
研究事項：自治への加入を否決・離脱したスールー州を対象に、その政治的・社会的背景と住民意識を調査し、紛争後の自治政府による統治の正統性と課題を検討する。

本研究は、改革開放期の中国の政治家や知識人が、同時代の世界各国と同じように、個人と国家、自由と秩序といった共通課題をめぐって苦悩してきた様を中国近現代の政治思想史の文脈から整理することである。
研究事項：1980年代の中国で刊行された「政治体制改革研究」叢書、「政治体制改革の研究と資料」叢書、「未来へ向かう」叢書などを量的かつ質的に分析する。

2025年度 助成金交付研究

【アジア歴史研究】

	研究者	研究テーマ
10	京都大学東南アジア地域研究研究所 西 芳実 准教授 他3名 にし よしみ	インドネシアにおける戦争の記憶：映像表象における日本占領
11	早稲田大学政治経済学術院 Bernat MARTI-OROVAL 准教授 他3名 ベルナット マルティ・オロバル	明治期の哲学研究と中国思想界への波及
12	上智大学総合グローバル学部 山口 昭彦 教授 やまぐち あきひこ	「クルディスタン」概念の歴史的変容過程の解明

出版事業

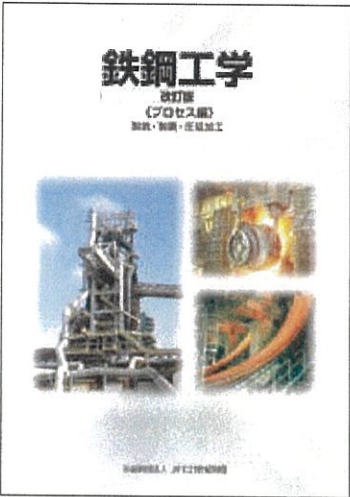
◇「鉄鋼工学 改訂版《プロセス編》・《材料編》」

当財団は2006年度に大学研究者や工学系学生に鉄鋼への興味・関心を持って頂くことを目的として、「鉄鋼工学《プロセス編》・《材料編》」を刊行したが、2018年度に12年振りの改訂作業を行い、2019年に「改訂版」として刊行した。

初版は大学教授4名の監修の下、JFE グループの鉄鋼関係の研究者・技術者7名が執筆したが、今回は JFE スチールのスチール研究所に設けられた編集委員会の監修の下、スチール研究所の研究者が、製鉄・製鋼・圧延加工・厚鋼板・薄鋼板・表面処理鋼板の6分野を分担して執筆した。

制作に当たっては、大学の専門課程での講義や学習会で活用されることも想定して、鉄鋼の製造プロセスと材料の基本的な工学理論を最新の考え方に基づいて記述するとともに、大学の研究者や学生の興味・関心を醸成するような最新の鉄鋼技術・研究を積極的に取り上げて紹介することとした。技術や設備を可能な限り、図・写真を多用してビジュアルに紹介することにより、最新の鉄鋼技術をわかりやすく理解できる教材にした。

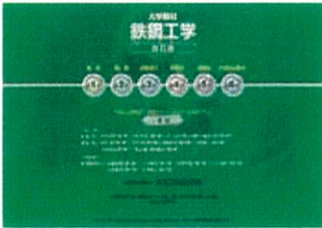
刊行時に鉄鋼工学に関係する各大学の図書館と、全国の材料系研究者に寄贈したが、現在も希望する学校や研究者への寄贈を継続している。



◇ Web コンテンツ「大学教材－鉄鋼工学（改訂版）」 「大学教材－鉄鋼プロセス工学入門」

鉄鋼工学の基礎理論から、鉄鋼メーカーの最新の技術や研究までを取り扱い、大学での講義等に活用できる大学教材であり、「鉄鋼プロセス工学入門」は1995年、「鉄鋼工学」は2018年に制作した。

いずれも財団 HP から PDF 形式で無償ダウンロードが可能であり、現在でも多数の方が利用している。



◇「たたら－日本古来の製鉄（増補改訂版）」

当財団は2004年に中高生を含めて様々な方々に「鉄」への関心を持って頂く目的で、「たたら－日本古来の製鉄」を刊行した。

東京大学が所蔵する絵巻「先大津阿川村山砂鉄洗取之図」には、江戸末期山口県に実在した「白須山たたら」を中心に、現在では姿を消した「たたら製鉄」の全容が、全長27mの絵巻に克明に描かれている。

本書は、この絵巻をビジュアルに書籍化したもので、絵巻の流れに沿って、たたら製鉄の原料である砂鉄の採取、砂鉄や木炭の陸上・海上の運搬、当時の製鉄所である「山内」の各種製鉄設備等を順次解説した。後半部では絵巻の解説を更に深めるために、鳥根県雲南市に現存する菅谷たたら等の製鉄遺跡の研究によって解明されつつあるたたら製鉄の技術について、オリジナルのイラスト等も加えて詳細な解説を行った。

2017年3月に12年振りに増補改訂版を刊行した。増補改訂版では、絵巻全巻の画像を最新のデジタル画像に替え、初版で割愛した部分も含めて絵巻の全巻を解説した。初版以上に絵巻を楽しんで頂けるものと期待している。

2025年度も、この書籍を希望者に寄贈している。



Ⅱ. 文化振興事業(公2)

鉄鋼に縁のある地域への貢献

定禅寺ストリートジャズフェスティバル(仙台市)

仙台市内全41か所で689組以上のプロ・アマ音楽家が音色を奏でる全国屈指のジャズ祭である。二日間で62万人もの観衆が集まり、老若男女が心ゆくまで生演奏を目前で楽しんだ。当財団としては仙台地区で初めての協賛となった。

9月13、14日 JOZANZI STREETJAZZ FESTIVAL 2025

主催 (公社)定禅寺ストリートジャズフェスティバル協会
共催 宮城県、仙台市 後援 宮城県教育委員会他
協賛 (公財)JFE21世紀財団、JFE スチール(株)仙台製造所他



千葉交響楽団

「公益財団法人千葉交響楽団」による恒例のファミリーコンサートへが船橋市民文化ホール、浦安市文化会館で開催され、ジブリの名曲集やトムとジェリーなどのアニメ音楽を子供から大人までが堪能した。夏休み期間中の貴重な経験になったと思う。

8月23日、24日 ファミリーコンサート オーケストラで楽しむアニメの世界

主催 (公財)千葉交響楽団、うらやす財団、船橋市民文化ホール他
後援 千葉県、習志野市、浦安市、教育委員会他
協賛 (公財)JFE21世紀財団、千葉銀行他



千葉市音楽協会

千葉市内のプロ・アマの音楽家有志の団体である「千葉市音楽協会」が主催する市民音楽祭と第九特別演奏会に協賛した。千葉市民会館大ホールを会場として、前者はアマチュア15団体が日頃の練習成果を発表した。

11月3日 第72回千葉市民音楽祭
12月20日 市民による第九特別演奏会

主催 (NPO 法人)千葉市音楽協会
後援 千葉市 協賛 (公財)JFE21世紀財団



千葉県少年少女囲碁大会、趙治勲杯囲碁大会

アマ有段者から初心者まで参加する趙治勲杯子供囲碁大会や小中学生が中心の個人戦・団体戦を開催する千葉県少年少女囲碁連盟に協賛をしている。

6月22日、11月30日 第46回少年少女囲碁大会 千葉県大会他
3月1日 第26回趙治勲杯囲碁大会

主催 千葉県少年少女囲碁連盟
協賛 (公財)JFE21世紀財団他



ふれあい祭り(川崎市)

「音楽とものづくりがふれあう」をテーマとして地域住民とのコミュニケーションを図る恒例の祭りがJFE 特設会場で開催され、ミュージックライブや縁日、工作・工場見学等を通じてものづくりとふれあう催しが行われた。

5月25日 2025ふれあい祭り

主催 「ふれあい祭り」実行委員会(JFE スチール(株)、川崎市)
後援 川崎商工会議所他
協賛 (公財)JFE21世紀財団



MUZA ランチタイムコンサート(川崎市)

ミュージア川崎シンフォニーホールが企画するランチタイムコンサートに、当財団とJFE スチール東日本製鉄所が共同でスポンサーとなり9月と3月の2回、冠コンサートを開催した。

9月9日 ドイツ&フランス・オルガン音楽の世界
パイプオルガン ニクラス・ヤーン
3月30日 楽器の王様 オルガンとピアノの色彩
パイプオルガン 濱野芳純、ピアノ 高橋優介

主催 ミューザ川崎シンフォニーホール
協賛 (公財)JFE21世紀財団、JFE スチール(株)東日本製鉄所



川崎こどもステージ

国指定の有形文化財に登録されている鉄工所ヤードを活用して、地元高校生が演劇、合唱、ワークショップを披露。地域住民との交流と鉄の歴史文化を学ぶ社会学習の場として新規開催された行事に協賛した。

6月21日 川崎市こどもステージ

主催 川崎こどもステージ実行委員会
後援 川崎市、川崎市教育委員会、姥ヶ森町内会他
協賛 (公財)JFE21世紀財団



はんだふれあい産業まつり

JFE スチール会場と半田びよログスポーツパークにのべ2.1万人の地域住民が集い、フリーマーケットやクイズラリー、農畜産物即売会、住民チームによるダンスショー等が開催された。

11月8日 JFE スチール会場
11月9日 半田びよログスポーツパーク

主催 はんだふれあい産業まつり実行委員会
共催 半田市、あいち知多農業協同組合、半田商工会議所他
協賛 (公財)JFE21世紀財団



鉄鋼に縁のある地域への貢献

三重県高等学校ロボット競技大会

三重県高等学校工業教育研究会が主催するロボット競技大会と工業教員の技術向上の研修事業に協賛。県内の8工業高校が「ロボット障害物競走」と「ロボットアメフトジュニア」の二種目で競う予定だったが、当日荒天による交通予防安全措置で開催中止となった。

1月25日 三重県高等学校ロボット競技大会

主催 三重県教育委員会、三重県高等学校工業教育研究会
後援 JFE エンジニアリング(株)津製作所
協賛 (公財)JFE21世紀財団

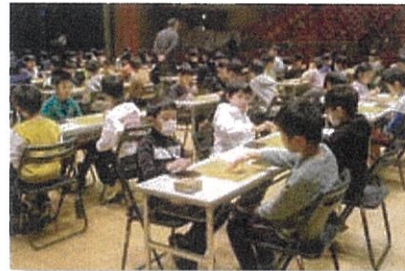


白壁倉敷将棋フェスタ

「第10回白壁倉敷将棋フェスタ」が、倉敷市芸文館で開催され、団体戦は3人一組の17チーム51名、こども個人大会は109名、プロ棋士との指導対局・懸賞詰将棋等に約200名が参加した。

1月18日 白壁倉敷将棋フェスタ

主催 倉敷市・倉敷市文化振興財団
協賛 (公財)JFE21世紀財団



倉敷音楽祭

第40回倉敷音楽祭は、3月7日から15日間に渡り、15種類のイベント・コンサートが催された。公募による市民演奏家が美観地区水上特別ステージで楽曲披露するなどして多くの観客が参加した。

3月7日～22日 第39回倉敷音楽祭

主催 倉敷市・倉敷市文化振興財団 共催 倉敷市教育委員会
後援 岡山県、岡山県教育委員会
協賛 (公財)JFE21世紀財団



福山ばら祭

第58回「福山ばら祭2025」は、「ROSE! ROSE! ROSE!!!～福山の歴史と誇り～」をテーマにして世界バラ会議、Rose Expo と同時開催され、50万人の参加者が緑町公園や中央公園等の市内6会場に集まり、バラ観賞と多くの出店ブースを楽しんだ。

5月17、18日 福山ばら祭

主催 福山祭委員会
協賛 (公財)JFE21世紀財団他



芸能大全～まつりの世界（福山市）

「芸能大全～まつりの世界」は、福山リーデンローズにおいて21回目の公演を行った。広島県安芸高田市広森神楽団による滝夜叉姫が披露され、そして神石高原町、三原市、福山市のよさこいチーム3団体が楽しく粋に舞い踊り、1600人以上の来場者が地域の伝統芸能を堪能した。

3月1日 第21回芸能大全「まつりの世界」

主催 (公財)ふくやま芸術文化振興財団、
ふくやま芸術文化ホール
協賛 (公財)JFE21世紀財団



オーケストラ福山定期

福山市の芸術文化ホール「リーデンローズ」開館30周年を記念したプロジェクト「オーケストラ福山定期」（5年計画）の協賛2年目となった。広島交響楽団と京都市交響楽団が計10回の公演を行い、一般観客に加えて市内全中学2年生を招待してモーツァルトやチャイコフスキーを演奏した。

4月20日～3月22日（計10公演） オーケストラ福山定期公演

主催 福山市、(公財)ふくやま芸術文化財団
協賛 (公財)JFE21世紀財団他



「海外子女文芸作品コンクール」協賛と文集寄贈

(公財)海外子女教育振興財団は、海外の日本人学校、現地校で学ぶ小中学生を対象に、国語力を伸長させると同時に、子どもらの貴重な体験を発表する機会として「海外子女文芸作品コンクール」を毎年実施しており、それを支援する協賛を継続している。

今年は、5月から7月15日にかけて募集が行われ、応募総数31,937点の中から、作文・詩・短歌・俳句の4部門で503点を選び表彰した。当財団からも計4点に「JFE21世紀財団賞」を授与し、また優秀作品約220点を掲載した文集「第46回地球に学ぶ」2200部を当財団が分担して作成し、鉄鋼に縁のある地域の小・中学校や図書館等約700箇所に寄贈した。

主催 (公財)海外子女教育振興財団
後援 外務省、文部科学省、日本放送協会
協賛 (公財)JFE21世紀財団他



Ⅲ. 財務データ (2025年4月1日～2026年3月31日)

貸借対照表

(単位：千円)

科 目	2026年3月31日
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金合計	164,140
流動資産合計	164,140
2 固定資産	
有形固定資産	0
その他固定資産	2,590,699
固定資産合計	2,590,699
資産合計	2,754,839
II 負債の部	
未払費用	1,754
流動負債合計	1,754
負債合計	1,754
III 純資産の部	
一般純資産	3,119,900
その他有価証券評価差額	- 366,815
純資産合計	2,753,086
負債及び純資産合計	2,754,839

活動計算書

(単位：千円)

科 目	2025年4月1日～ 2026年3月31日
I 経常活動区分	
経常収益	
資産運用益	128,476
雑収益	60
経常収益計	128,536
経常費用	
事業費	
大学研究助成	104,048
文化振興	19,422
管理費	6,765
経常費用計	130,235
経常収益費用差額	- 1,699
II その他活動区分	
その他収益	0
その他費用	0
法人税等	0
当期収益費用差額	- 1,699

Ⅳ. 運営体制の充実を図るための取り組み

- (1) 公益目的事業の実施状況については、前ページまでに記載したとおりであり、事業計画書に記載したすべての事項の実施を確認した。
- (2) 運営体制の充実をはかるための取組については、
◇外部理事・監事の選任については、既に適正な状況である旨を2025年6月理事会で報告した。
◇同理事会にて公益認定法等改正に伴い取り組むべき内容を報告し、共有した。
それに基づき取り組みを進め、2025年度事業会計から新法会計基準を適用した。

公益財団法人 JFE21世紀財団

JFE 21st Century Foundation

(沿革)

1990年12月 川鉄21世紀財団設立（旧川崎製鉄株が、創立40周年を記念して設立）
2003年4月 JFEグループ発足に伴い、JFE21世紀財団に改称
2012年4月 公益財団法人へ移行

(設立の目的)

この法人は、21世紀における創造的発展をめざす鉄鋼産業及び関連産業（以下「21世紀鉄鋼産業」という。）に資する調査・研究、国内外の21世紀鉄鋼産業に関連する地域の発展・国際交流に資する事業等を行うことにより、産業と社会・文化の調和あるパラダイムの構築をはかり、もって21世紀鉄鋼産業の振興及び豊かな生活文化の形成に貢献することを目的とする。

(事業内容)

1. 大学研究助成等事業
(1) 技術研究助成（公募）
(2) アジア歴史研究助成（公募）
(3) 大学教材・鉄鋼関連出版物の作成・寄贈
2. 文化振興事業
(1) 鉄鋼に縁のある地域への貢献
(2) 海外子女文芸作品コンクールへの協賛と文集の寄贈

評議員・役員名簿

評 議 員	安住 和久	北海道大学 名誉教授
	梅村 坦	中央大学 名誉教授
	柿木 厚司	JFE ホールディングス(株) 特別顧問
	須佐 匡裕	東京科学大学 特命教授
	中島 邦彦	九州大学 名誉教授
	広瀬 政之	JFE スチール(株) 代表取締役社長
	明珍 幸一	川崎汽船(株) 取締役会長
理 事 長 専務理事 理 事	北野 嘉久	JFE ホールディングス(株) 代表取締役社長
	寺畑 雅史	JFE ホールディングス(株) 代表取締役副社長
	小橋 眞	名古屋大学 教授
	鈴木 善久	伊藤忠商事(株) 理事
	筒井 義信	日本生命保険㈱ 特別顧問
	平田 好則	大阪大学 名誉教授
	古原 忠	東北大学 教授
	前田 正史	京都先端科学大学 学長
	吉田 政雄	古河電気工業(株) 名誉顧問
	田中 利弘	JFE ホールディングス(株) 専務執行役員
監 事	谷上 和範	公認会計士

(2026年3月31日現在)